

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772300044		
法人名	社会福祉法人 幸仁会		
事業所名	さわやかホーム 比謝川の里		
所在地	沖縄県中頭郡嘉手納町字水釜336-2		
自己評価作成日	平成27年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4772300044-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成27年 10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を改修した施設で、家庭的な雰囲気大切に、一人ひとりの身体機能や希望、想いに沿った支援を心がけている。近隣の社会資源を利用し地域との交流を図る。施設の庭での野菜作り、家族や知人との交流など、身近な事、利用者が出来る事を中心に生活の中に活気や潤いが持てるように努めている。ターミナルケアへも積極的に取り組み、本人、家族の意向を確認し不安なく希望に沿った支援が行えるように、家族、主治医、看護との連携を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道沿いの賑やかな大型店舗の真裏に位置した住宅街の一角で、2階建ての民家を改修した建物となっている。1階と2階は階段とエレベーターで移動できるが、昨年の消防訓練の際、2階からの避難経路について消防に指摘された為、今年5月に、2階のベランダから1階に通じる外階段を新たに増築し避難経路の課題をクリアした。1階の和室の居間にはソファを配置し、利用者は思いおもいにテレビを見たり横になる等して過ごしている。利用者家族の訪問時にも居間でおしゃべりをしたり、他利用者も一緒にカチャーシーを踊ることもあり、賑やかなコミュニケーションの場となっている。家族が県外在住者の利用者1名を除き、家族の面会や差し入れが多く、県外在住の家族へは電話連絡を密に行い、事業所は家族との良好な関係性を築いている。利用者の1人が、10代の頃に県外で働いていた頃の社歌(思い出の歌)を歌い出すと、職員も皆、歌詞を知っていて合唱する場面があった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成27年11月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をホーム内に掲示し職員間の意識付けを図り、定例会での理念のふり返しを行い実践に繋げている。個々の身体機能を把握し出来る事を見出し支援している。	理念は、昨年管理者と職員が話し合い作成している。「寄り添うケア」を最も大切な理念の拠り所として捉えている。看取りケアでは、利用者、家族に寄り添うケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内での祭りへ参加、旧盆には自治会の青年会が施設前にてエイサーを披露してくれる。馴染の美容室を利用したり、地域との交流が図れるよう取り組んでいる。	町内の祭り「野国総管祭り」に利用者職員が参加している。中高生の職場体験の受け入れを行っている。今回初めて三味線クラブの方がボランティアで訪問している。踊りやお話ボランティア、近隣の保育園児や幼稚園時との交流を調整している。	現在調整中である、来所を取り決めているボランティアや保育園、幼稚園児との交流が実現できるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学、高校生の職場体験実習、町役場職員の介護体験等を受け入れている。行政と母体が開催する勉強会等でも講師として参加し認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を定期的に開催し、家族、地域、行政との意見交換、勉強会、状況報告を行っている。家族との交流会を実施し協力体制が築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議は年6回定期的に開催し、利用者も毎回参加している。今年度から、家族代表、地域代表、福祉課の変更と社協職員が追加で委嘱状が交付されている。会議では活動や状況報告、事故やヒヤリ・ハット、外部評価の結果など報告している。委員から勉強会をして欲しいなどの意見もあり実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や敬老会等の行事へ参加して頂き、情報提供を行っている。福祉課や包括センター、社協、自治会との連携を図り協力関係が築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議以外に福祉課へは、認定更新の代行で窓口訪問している。今年の敬老会への参加依頼を行ったが、参加には至っていない。包括支援センターからの紹介で、入居希望の方の相談や受付を行ったケースがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定例会やカンファレンスの中で話し合いを行い意識できるよう努めている。身体拘束を行わない方針を心がけ取り組んでいる。	職員は定例会で、身体拘束や言葉での行動制限について、マニュアルや研修会の資料を活用し理解している。今年度は、ベッドの四点柵の拘束はない。一人で外出する方へ職員が寄り添い一緒に散歩するなどの支援に取り組んでいる。	

沖縄県(さわやかホーム比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止している	母体での勉強会等に参加。職員間で利用者に対する接し方、コミュニケーションについて話し合い、より良いケアに繋げている。今後も学びを継続し徹底した取り組みを行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会へ参加し事業や制度について学べるよう取り組んでいる。現在活用している事例はないが、必要性があれば関係者と話し合い活用できるよう取り組み支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書と口頭で内容を説明し理解を得ている。利用者、家族の意向や疑問を聞き取り、理解、納得されるように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの意見、要望がある時は、申し送りや定例会等で話し合い、情報を共有しサービスに繋げている。必要に応じて母体での運営委員会で報告し運営に反映させている。	利用者からは日頃の生活場面で、家族からは面会時や担当者会議で意見や要望を聞いている。9月に「家族懇談会」を開催し3家族の参加があった。参加した家族から、「懇談会」より「ゆんたく会」なら他の家族も参加しやすいのでは、と意見があり変更している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、定例会、業務中でも意見が聞けるよう取り組み、意見交換し業務の改善、向上に努めている。必要に応じて個人面談を行ったり、代表者へ報告し改善できるように努めている。	職員からの意見は、定例会議や申し送り、業務中などに意見を聞く機会を設けている。ターミナルケアや転倒などもあり、業務改善や人員配置について職員から意見があった。業務時間の変更や職員を一人雇用することで、手薄になっていた夕食後の人員増など改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面の改善、処遇改善交付金等で意欲向上に繋がっている。職員の意見を反映させ職場環境、条件の整備に努めているが、不定期に人事異動がある事で不安、戸惑いを感じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めて	母体や施設内での勉強会、施設外での研修等を活用し、学ぶ機会を提供する事で質の向上に繋がるよう努めている。		

沖縄県(さわやかホーム比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会にて情報交換や困難事例の相談を行っている。近隣施設との意見交換も行っている。同法人内職員との連携、相談を行う事で質の向上へ繋げられるように取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活状況、基本情報を把握し、利用者のペースに合わせた対応に努め、話や訴えを傾聴し、安心して生活が送れるよう支援し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談、カンファレンスや面会時に家族の気持ち、意見を聞き取り職員間で共有できるよう努めている。状態の変化がある時はその都度報告し相談。信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常の状態観察や家族との会話の中で、本人、家族が必要としているサービスを見極め、必要に応じて他のサービス情報も提供しながら対応出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの得意分野を活かした役割分担を行い、お互いが協力できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも気軽に面会、相談できる環境を意識し、家族と共に支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの理容館へ出かけたり、家族以外の面会にも柔軟に対応し、友人、知人との交流が図れるように支援している。	関係性の把握は家族知人から情報を得ている。家族の協力で、馴染みの理美容室へ出かけたり、同級生や昔近所に住んでいた方が、訪問して一緒に会話を楽しんでいる。シーミーや盆正月、法事などの際には車いすを貸し出す等の支援を行っている。	

沖縄県(さわやかホーム比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり、関係作りが出来るようにコミュニケーションを図っている。レク活動や行事等、日々の生活が楽しく送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体(特養)への移動退所された利用者にも定期的に面会し、コミュニケーションを図っている。退所者の家族からの相談にも対応できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが安心して生活出来るよう意向の把握に努めている。重度化し困難な利用者に対しては、家族、職員間で支援内容を相談し支援出来るように努めている。	「自宅に帰りたい」「てびちが食べたい」「カチャーシーをして楽しく過ごしたい」など利用者の思いや希望を聞いている。重度化に伴い把握が困難な利用者は、仕草や表情、家族から情報を得て把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者から、生活歴や家庭環境等のこれまでの暮らしについて情報を聞き取り、状態把握に努め、サービス提供へ活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の性格、身体機能、生活歴、日々の暮らしの中で有する能力を観察し、職員間で情報を共有、現状の把握に努め支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の情報交換を行い、本人、家族、主治医からの意見も含めて、モニタリング、カンファレンスを開催し現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議に利用者、家族も参加している。職員からはカンファレンスや担当者会議参加の際に情報を得ている。毎月モニタリングを実施し、介護計画の見直しは更新時や半年に一回行っている。日々のケアチェック表と介護計画のサービス内容のチェック表を活用して計画に沿ったケアを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態をケース記録へ記録、職員間で情報を共有し実践、介護計画の見直しに活かしている。		

沖縄県(さわやかホーム比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望、状況に応じて柔軟に対応出来るよう支援している。外出や行事、その他の相談があれば臨機応変に必要な応じたサービスが提供できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	重度化に伴い、以前のように頻りに買い物に出る機会は少なくなったが、車椅子を利用して買い物や四季折々の行事への参加、外出が楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を確認し、家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援している。家族の対応が困難な場合は職員が対応している。	入居前からのかかりつけ医を継続している方が1名で、本人家族の希望により、終末期の体制が整備されている法人の協力医に変更している。受診時は家族と管理者が交代で同行している。受診結果は直接医師から説明を受け、即日職員に周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化がある時は、24時間オンコール体制の看護師(本体看護師)に連絡相談し、適切な受診や看護が受けられるように支援している。終末期の対応も協力を得て支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療が行えるように定期的に面会し、家族、医療機関との情報交換を行っている。退院時には、家族、関係者とカンファレンスを開催し退院後の支援がスムーズに行えるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	積極的にターミナルケアに取り組んでいる。現在の入所者については、重度化した場合や終末期の支援について確認している。関係者やチームで支援できるよう取り組んでいる。	重度化や終末期に対応する方針があり、契約時に本人家族の意志を確認したうえで同意書を作成している。今年2名の方の看取りを行った。初めて看取りを経験する職員もいて、管理者が細かく観察ポイント等の指導を行った。職員は家族と共に看取ることができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や手当、初期対応等の資料は掲示し意識しているが、定期的な訓練は実施していない。定期的な訓練、研修等で学び、実践力が身に付けられるよう努めたい。		

沖縄県(さわやかホーム比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回(昼間、夜間)の避難訓練を実施している。地震、津波災害時のマニュアルを作成し避難場所の確認や本体からの協力体制、支援も確保している。地域の避難訓練にも参加し協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を実施している。津波や火災を想定した自主訓練を重ね、災害マニュアルを設置している。常備食は2日分程で備蓄はなく、ランタン等は準備している。運営推進会議で地域参加を呼びかけ、参加予定としていたが、当日は地域参加はなかった。	今後、備蓄の用意と地域住民の協力が得られる取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、寄り添うケア、見守るケア、個々の能力に応じたケアを心掛けている。プライバシーを損ねない言葉かけ、対応にならないように努力している。定例会等でも話し合っている。	利用者のこれまでの生活歴を把握し、できること、得意なことを活かす支援をしている。美しい文字が書ける利用者に敬老会の看板の文字を書いたり、食べ物屋さんを営んでいた方には調理の下ごしらえの手伝いをお願いしている。本人家族の要望に対応し、マッサージを週2回30分受けている方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けにならないように、本人の意向を確認し自己決定出来るように努めている。表現できない利用者には表情や仕草などを観察し本人の希望に近づけるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望、意向を傾聴し、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のおしゃれ、身だしなみは常に意識し、本人の希望を尊重し、個々の能力に応じた支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員が参加するのは難しいが、能力に合わせて、食事の準備や片付け、お茶パック詰め等の場を提供している。	食事は3食全て事業所で調理している。事業所で収穫した野菜がメニューに並ぶこともある。利用者の体調の良い時は準備を手伝ってもらい、職員は同じ献立を利用者と一緒にテーブルを囲み食事を摂っている。献立は職員が作り、栄養士に相談しながら献立表を完成させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせて対応する事を意識し、食事、水分摂取量、状態を観察し適切に対応している。必要に応じて栄養補助食品等も利用している。状態に合わせて形態やメニューを変更し対応している。		

沖縄県(さわやかホーム比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し実施している。個々の能力に応じて見守り、一部介助、全介助で対応し口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に応じた対応を心がけている。排泄パターンを把握し自立支援出来るように努めている。パットの種類も見直し検討している。失敗した場合は不衛生にならないよう入浴や洗浄で支援している。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握、事前に声掛けし排泄支援を行っている。拒否する方への声掛けを工夫し、成功事例は職員間で共有し統一ケアに取り組んでいる。現在オムツの使用はなく、パットの種類(大・小)で使い分け等で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、食物繊維の摂取、運動を取り入れ予防している。牛乳、ヨーグルト、芋類の摂取を意識し支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日を設定しているが、希望や拒否がある場合は調整し対応している。外出や家族希望、汚染時など臨機応変に支援できる。	入浴は週3回を基本とし、家族の面会時前等にも入浴をしている。拒否がある方に対しては無理強いせず、曜日や時間をかえて対応している。入浴時には、利用者それぞれの好きな温度設定をし、身体状況によっては法人からスイングチェア等の用具を借りて対応している。洗髪後に必ず、自分でカーラーを巻く方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室や共有スペースで自由に休憩が取れるように支援。夜間は室温や寝具類の調整、睡眠状態の確認を行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。不眠者には無理強いする事無く観察を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱に説明書を貼り付け、目的、副作用、用法、用量等について確認出来るようにしている。変更があった場合は申し送りし、投薬時は声に出し、職員間で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を把握し、その人に合った役割、楽しみ事が支援出来るように努めている。無理強いする事無く楽しんでもらえるよう支援している。職員間で情報を共有している。		

沖縄県(さわやかホーム比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	四季折々、季節を感じられるような外出支援を心がけている。家族へも外出支援の協力を行い、可能な方は定期的に外出されている。	法人のリフト付きバスを借り、全員でお花見へ出掛けたり、近くの公園に散歩するなど利用者が季節を感じられるような外出支援に努めている。個別に利用者と買い物に出掛けたり、夕方帰宅願望の強い方と一緒に近所を散歩をする等の対応も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理は難しく、施設にて預り金として管理している。外出時や本人の希望がある時は利用できる状態である。心配する利用者には、その都度安心できるような声かけで支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は電話をかけてもらっている。暑中見舞いや年賀状の作成支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な作りで、日当たり良好。縁側に座り庭を眺めながら雑談、TV、DVD鑑賞をしながら心地よく過ごせる。庭で咲いた花を花瓶に生け季節感も感じられるよう工夫している。	職員は季節の行事の写真に吹き出しでコメントを書き、壁に飾っている。利用者は職員と一緒に庭を眺めながら縁側で昔話をしたり、居間のソファで横になったり、心地よく過ごせるように工夫している。利用者の身体状況変化に合わせ、模様替えも行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや椅子は自由に利用でき、座ったり、横になったり思い思いに過ごせる。利用者同士で過ごす事ができる。常に声が聞こえる環境で利用者も職員も安心して過ごせる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や行事ごとのポップ等が掲示されている。時計やラジオ、使い慣れた家具の持ち込みも可能で、好みを活かして心地よく過ごせる環境になっている。	居室は広く、家具は本人や家族の希望するものを持ち込んで配置している。居室の壁には、職員と一緒に制作した品や、家族写真を飾ったり、利用者が若い頃にご主人から貰ったという思い出の品や、仏壇、宗教関連のものを持ち込んでいる方もいる。管理者は家族から入居前の枕の方角を聴いて、ベッドの配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りしやすい空間で利用者の安全を確認できる。コール利用の促しで転倒の予防になっている。個々の能力を把握する事で声かけや見守り対応で安全に過ごせるように工夫している。		